



義高の想いを果たそうと「義高ウォーク実行委員会」では、狭山まちづくりリストの会の企画により義高ウォークを毎年5月4日に開催しています。

長らく伝承されてきた入間川に伝わる悲話を後世に伝えると同時に平和であることや命の大切さも伝えたいものです。

### 清水冠者 源義高について

木曾義仲の嫡男として生まれる。母親は巴御前とも、山吹御前とも言われるが決定的な根拠は乏しい。木曾義仲が19の時の子で、生まれは木曾とも松本とも云われる。

平安時代末期、平家打倒の流れの中源頼朝は源氏同志で覇権を争う行動を起こしました。従兄で若い木曾義仲はこれを冷静に受け止め、源頼朝との無用な戦いを避けるために嫡男の清水冠者義高を人質として頼朝に差し出し、頼朝は娘の大姫の許嫁にしようとした。

義高は11才で源頼朝の人質になったが大姫と仲睦まじく暮らしていた。翌年木曾義仲が頼朝の軍勢に討たれると人質の意味が失われた。頼朝は義高が成長すれば自分が狙われると思い義高の殺害を決意した。

これを知った義高は頼朝に連れられてきた道を帰るかのように義仲の生まれた武蔵嵐山にある大蔵館の方向に向かって鎌倉から逃げるが、頼朝の追手により入間川原で捕まり、寿永3年（1184年）4月26日斬首された首は鎌倉に持ち帰られてしまった。

12歳の少年義高は大人たちの勝手な都合で理不尽な生涯を終わった。一部始終を見ていた郷人たちにより遺骸が埋葬されその上に義母の北条政子は清水八幡宮を建てたと伝わる。この悲劇は835年もの長きにわたり入間川の里人によって語り継がれている。

義高ウォークでは清水八幡宮の他に一度は逃げたと云われる影隠し地蔵に寄り、そのあと鎌倉古道を北上し大蔵館跡を目指します。

お申し込みは下記内容で電話またはFAXでお申し込みください。

TEL/FAX 04-2953-5704 義高ウォーク実行委員会 吉岡勇三

参加費 1,000円（中学生以下500円）は5月4日の当日に徴収させていただきます。

これらはガイド資料、安全誘導や保険などイベントの維持継続のために使わせていただきます。途中の休憩ポイントでは飲料のご提供があります。また歴史ポイントでは歴史ガイドがあります。

| ご氏名 | ご住所 | 連絡先 | 年齢（任意） |
|-----|-----|-----|--------|
|     |     |     |        |
|     |     |     |        |
|     |     |     |        |
|     |     |     |        |